

嘘と秘密で世界を支配できるか

平和統一 NEWS No.69 (2014/6月号)

渡辺 久義

たとえあなたの部屋に象が入ってきても、何かが見えたと言ってはならない、「なぜこんなことが」と問うてもならない——この皮肉な比喩は私が考えたものではない。地球規模の気象操作（意図的環境破壊）に警鐘を鳴らす人たちがよく使う比喩である。裸の王様を見ても、「王様は裸だ」と言ってはならない。隠しごとではあるが、これを堂々と隠して人々を愚弄するというのが、陰の権力者のやり方である。ケネディ大統領は1963年、有名な演説で「国家の中枢に隠しごと、秘密があってはならない、私は在任中にこれを正すつもりだ」と言った。そして一週間後に暗殺された。

私がこの連載エッセーを書き始めたのは、数年前、インターネットで、アメリカ各地にプラスチック製の棺桶がずらりと並び、ナチスの強制収容所そっくりの施設が数百も存在するという事実を知って驚いたのがきっかけだった。「何も起こらなかったではないか、騒ぐことはなかったのだ」と言う人があるかもしれないが、それは大きな間違いである。この不気味な事実が、他のもろもろの不気味な現象とつながり合って、「ああそうだったのか」と全体像がおぼろげに、しかし次第に明瞭に見えてくる。我々はどのような世界に、どのような時代に生きているのかということが分ってくる。これを知ってもどうしようもないと言えば言える。頭の上のケムトレイルはどうにもならない。ウクライナ紛争もどうにもならない。新聞やテレビが肝要なことは一切報道しないという現実も、どうにもならない。

良心的な科学者の指摘によれば、この一カ月だけで、魚の大量死の現場が世界中で数十か所も発見されている。（理由は問わないまでも、事実として報道すべきなのに、それさえ我々は知らされない。カリフォルニアの砂漠化も同じ。）人間も同じ運命をたどるはずだと彼らは言う。しかし、なぜこうなったのかを知った上で納得して死ぬのと、何も知らないまま、やみくもに天を呪って半狂乱になって死ぬのとは大違いである。少なくとも私は、理不尽に死ぬとしても、その理不尽さの意味を知っているつもりである。我々が死後も永遠に生きるとしたら、これを将来に役立てることができる。我々は死んでも死なない。

騙すこと隠すことによって、世界を支配しようとする人たちがいる。情けないことに我々自身も、知らぬうちに彼らに協力している。協力するように躰けられているからである。「教育を受けた良識ある人はダーウィンを疑ったりしないものだ」などと言う人がいる。その

ように言う人たちは、「良識ある教養人は9.11やケムトレイルを疑ったりしないものだ」と言うだろう。今ではほとんど誰もが知っている9.11テロの真実を、いまだに知らないことにして、世界情勢の分析などを試みているのが現在の知識人である。そんなことができるはずがない。自分をも他人をも騙すことによって、誰に協力しているのかを弁えなければならない。

先日、欧州評議会の前事務総長ヴァルター・シュヴィマー博士の講演会が大阪であったとき、私は“3分間”の挨拶でそのことにわずかに触れて、「霊的観点」というものなしに世界情勢の把握も分析もできないはずだ、と言った。彼はそのことをしきりに気にしながら話しておられた。霊的観点とは、神とサタンの最終対決ということ、「ハルマゲドン」ということである。これが今、ウクライナをめぐる衝突になって現れているという趣旨の論文を訳したので、創造デザイン学会サイトで、「ウクライナ紛争：何が真相か——東西の最近の最大の戦争がウクライナに集約」を読んでいただきたい。そこではこう言っている——「この展開中の地政学的チェスボードは、現実には、ロシアが世界管理の法（ダールマ）を維持する義務を果たすように、**真の権力者**によって配置されている。プーチンは世界の抑圧された国々の支持を得ていることを知っている。また運命は、彼の側、ロシアの側、BRICSと抑圧された世界の人民の側にあることを知っている。」「真の権力者」とは、宇宙の法（ダールマ）の体現者という意味である。チェスゲームの配置（神側とサタン側のプレイヤー）が変わってきたということである。またこうも言っている——「ソ連の権力構造を財政支援し、その発展のあらゆる段階で、ヒエラルキーを決めたのが誰であったのかを理解することが肝要だ。」誰？ これについて最近私は初めて事実を知った。

嘘と隠蔽と秘密でガチガチに縛り上げた世界が、繁栄し永続することなどありえない。今この世界がぐるりと反転して、嘘も隠蔽も人間操作もありえない、解放された世界が訪れようとしている。これを大転換期とも、次元上昇期とも言っている。それは、『ザ・シンクロニシティ・キー』に引用されているRaの言葉が示す通り、「怒り、ストレス、抑圧、欲求不満、失望、屈辱ということが文字通り不可能な世界…、嘘をつく、騙す、盗む、不敬を働く、不当に要求する…といったことが一切不可能な、誰もがいつでも、あなたの考えているすべてを知っている世界」（p. 635）なのである。